



令和4年度国公立大学附属病院医療安全セミナー開催報告

令和4年度国公立大学附属病院医療安全セミナーを6月1日に開催しました。本年も新型コロナウイルス感染症流行の影響でオンライン開催となりましたが、計602名と多くの参加者がありました。

今年は行政、医療、航空、法曹と多分野から最新の知見を学びました。その中から2つのご講演内容をご紹介します。



コロナ禍における医療者の情報発信

講演：忽那 賢志 先生 (大阪大学医学部附属病院 感染制御部 部長)

コロナ禍において医療情報発信のスピードは加速しているが、これに伴う問題も少なくない。

1. 情報を正しく読む力の重要性

COVID-19に関しては、情報発信の正確性よりも迅速性が重視された結果、発表されたプレプリント、査読誌掲載論文ともに玉石混交で、科学的根拠に乏しく撤回されたものも多かった。読み手の科学リテラシーが重要である。

2. 医療情報の伝え方にも工夫を

医療情報は「エビデンスに基づいて正しく説明する」だけでは不十分。受け手が理解しやすい啓発方法 (TV, Website, YouTube, SNSなど) を考えていく必要がある。



新型コロナワクチン輸送について -使命感が推進したレジリエンス-

講演：今岡 和哉 先生, 工藤 智樹 先生, 南埜 直樹 先生 (ANA Cargo)

新型コロナワクチン輸送にどのように取り組んだか

<類例のない大量のmRNAワクチン輸送>

あらゆる制約をレジリエンスで乗り越えた

- ・ **-70度での輸送が必要 (通常ワクチンは+2~8度)**
⇒ ドライアイス (航空法上"危険物")の搭載量の上限を関係各所と調整し緩和した。
- ・ **ベルギーからの輸送 (通常のワクチン輸送における出発空港、輸送量とは異なる)**
⇒ コロナ禍で欠航していたベルギー線の運航再開、大型機材への変更等を実施。
- ・ **到着後、引き渡しまでの時間を短縮する必要**
⇒ 成田国際空港の協力を得て、駐機場所、引き渡し場所を調整し通常120分の行程を40分へ短縮した。
- ・ **イレギュラーへの対応**
⇒ 例1) 強風により目的地が成田空港から羽田空港へ変更した際、事前にイレギュラーマニュアルを作成していたことにより、問題なく対応。
例2) ウクライナ情勢悪化時、ロシア上空を飛行できなくなったため、通常ルートから中央アジアルートへ飛行経路を変更。



初便到着 2021年2月12日